

同 志 社 大 学

2010 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2011 年 3 月 8 日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバル・スタディーズ研究科	教授	内 藤 正 典
研 究 題 目	イスラーム圏諸国における国民国家モデルの変容～イスラーム主義の挑戦	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究課題について、年度の前半はトルコ共和国に焦点を当て、9月12日に実施された国民投票の結果、1982年の軍政下で制定された憲法を民生憲法に改正するプロセスについて分析を行った。</p> <p>年度の後半は、2011年1月、チュニジアに始まり、エジプト、リビア、バハレーンなどに波及した反乱が、単に体制打倒のみを志向するのか、あるいは新たな国民国家モデルの変容を志向するのかについて、逐次情報を収集し分析に当たった。</p> <p>本研究による成果としての刊行物（予定を含む）は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 内藤正典「トルコはいかにして外交上のプレゼンスを飛躍的に高めたか?」、『外交』vol.6,pp.134-149,外務省2. 内藤正典「イスラーム・ソフトパワーの台頭—トルコの新たな外交戦略と中東情勢」、中東協力センターニュース、2010・8/9,pp.40-44.,(財)中東協力センター3. 内藤正典「中東における反乱は民主化への道を拓くか」(執筆中)、『世界』岩波書店、2011年5月号	